京都地区における
地域循環共生圏

京都大学大学院地球環境学堂
京都超SDGsコンソーシアム
浅利美鈴
mezase530@gmail.com

森の京都

https://miyamanavi.com/
https://www.keihoku-style.com/

南丹市　美山

京都市　京北

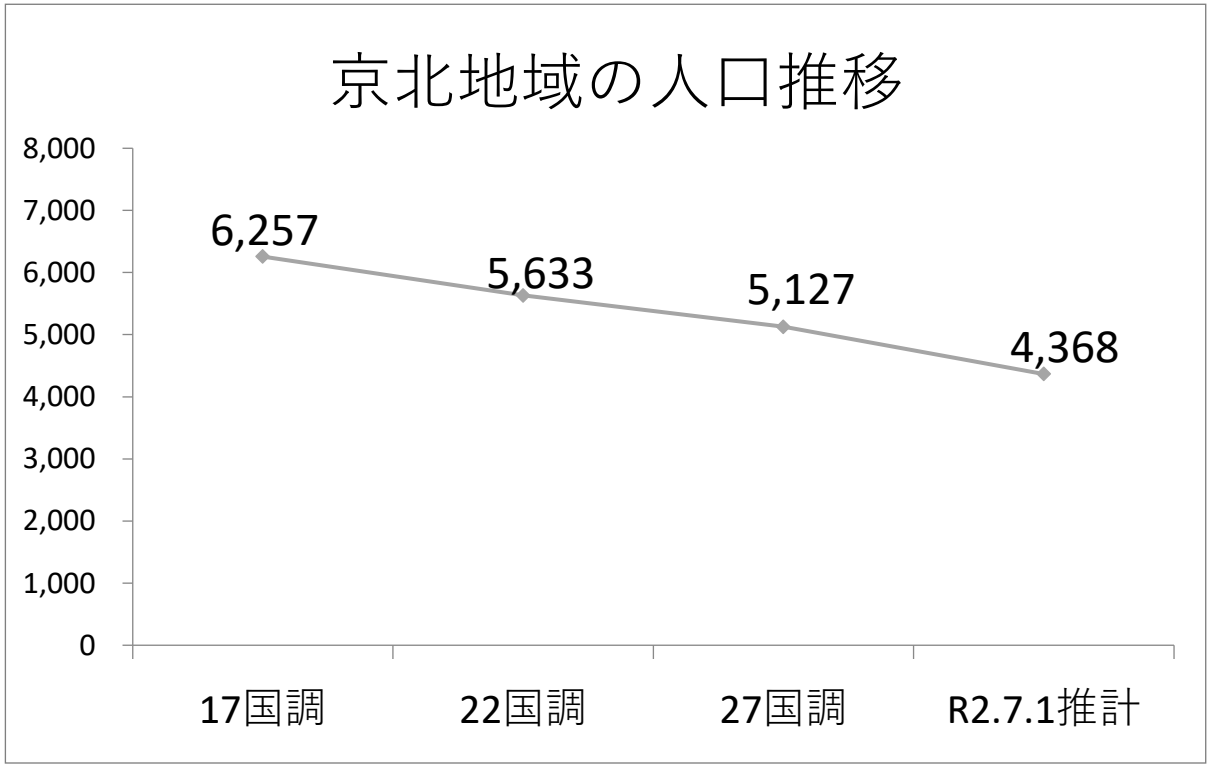
美しい環境
地域愛
誇り

持続可能性が危ぶまれる中山間地域

＜例：京都市京北地域＞

- 人口は5年間で14.8％減少
- 少子・高齢化が進む
- 産業（林業）の停滞

平成27年「京都京北未来かがやきビジョン」策定



京都京北未来かがやきビジョン推進会議資料

50年・100年後に向けた
持続可能な中山間地域の実現を目指して

～ 世界の京都の強みを徹底的に活かしきる～

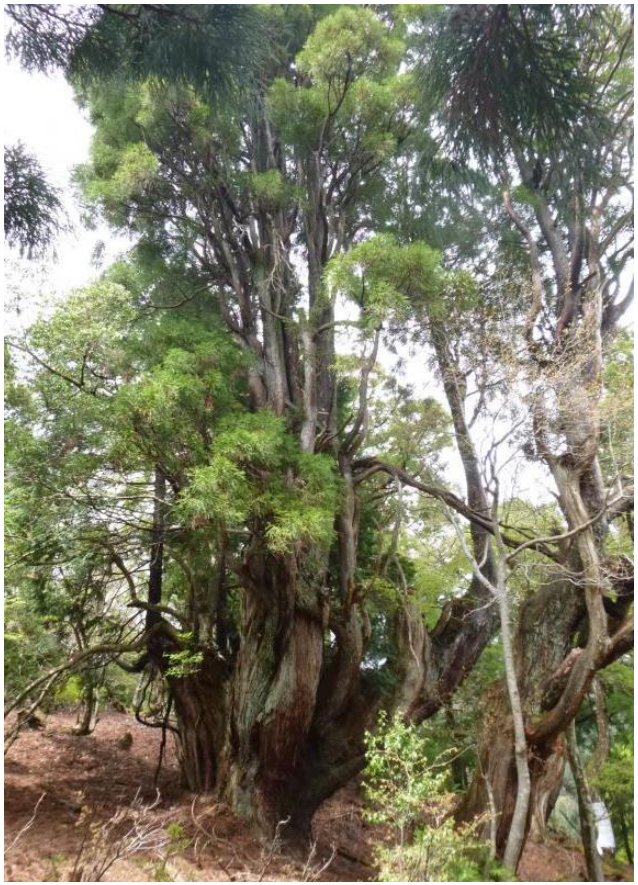
　京都には，歴史力，文化力，大学力，ものづくり力，観光力，宗教力，食文化力等々，そして何よりもそれらを支える地域力，人間力などさまざまな「力」があり，世界の京都の強みとなっています。そして，京北地域は，豊かな自然に恵まれた中山間地域でありながら，京都市の都市部まで車で４０分の近距離に位置します。

　このような**世界の京都の強みを徹底的に活かしきり，雇用，住まい，子育てなどの施策を展開できることは他都市には類を見ない大きな魅力です。**

　この京北地域のまちづくりにより，京北地域と都市部が相互補完し，京都市全体の更なる発展につながることが期待されます。（「京都京北未来かがやきビジョン」）

　豊かな自然と充実したインフラ環境を最大限活用し，コロナ以降の中山間地域への評価の高まりや多様な働き方等の動きを十分に捉え，京北地域の活性化の流れを確かなものとしてまいります。

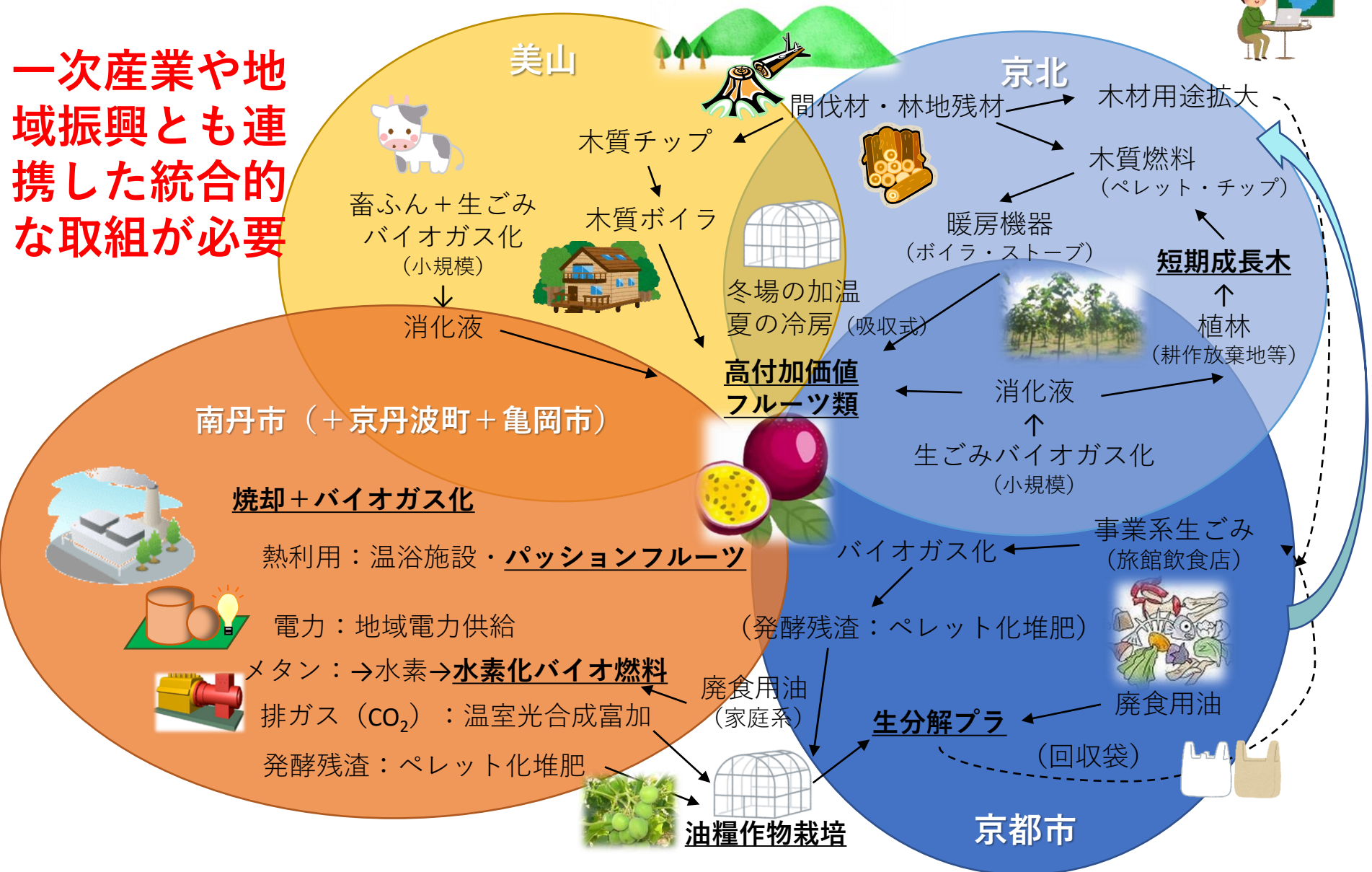
（2020年11月10日前回シンポジウムにおける
京北出張所長　大東氏のご発表スライドより）



地域循環共生圏イメージ（例）

市街地・中山間地域の連携を促進する新インフラ（IOT、テレワーク、多様な労働・生活形態）

一次産業や地域振興とも連携した統合的な取組が必要



京北地域住民の方との取組・検討

一次産業や地域振興とも連携した統合的な取組が必要

↓

京都大学、京都超SDGsコンソーシアム※としての取組

- 地域住民や関係者との事業展開に向けた関係性構築や情報収集
- 京都京北未来かがやきビジョン推進会議WSの運営（2020年度計4回ほか）⇒住民目線での循環政策への意見等の徴収
- 地域ニュースレターの発行
- 京都京北小中学校におけるSDGs・環境教育実施支援
- 京北地域の全世帯を対象としたアンケート調査の実施

※京都市・京都大学・リコー・JT・安田産業・ecommit・ソフトバンク・セブン＆アイ・ホールディングス・三洋化成工業・日本マクドナルド・エフピコほか

地域住民や関係者との事業展開に向けた関係性構築や情報収集

- 京北地域における家庭ごみ発生状況及び処理に関する特徴の把握

地域の人的資源

▲旧京北第二小に生ごみ回収ボックスを設置し，住民たちが持ち込んでいます。

京北学区（右京区）

子どもたちと廃校に花畑を

【山国地域ごみ減量推進会議】

一斉休校になった子どもたちの提案で，旧・京北第二小学校跡地に花壇を整備しました。地域住民に回覧で「生ごみ回収」を呼びかけ，集めた生ごみを堆肥化し，花壇づくりと家庭ごみの減量に取り組んでいます。

- 京北地域で段ボールコンポスト等に挑戦する市民団体との交流

- 京北・美山地域から京都市内への有機農作物流通ルート構築に取り組む団体や、農業者との交流

京都オーガニックアクション協議会

- エコツーリズムなど、美山とも連携した取組事例の把握

京都京北未来かがやきビジョン推進会議WS

第１回
2020.10.09

京北の今と、未来についてのキーワード抽出

第２回
2020.11.12

4テーマで未来について議論
◆創造的なつながり＆場づくり
◆働き方
◆子育て
◆ライフスタイル

第３回
2020.12.15

4テーマについて未来の実現に向けてスタートを切るための議論
→**農林業**、**ジビエ**、空家対策、移住、**教育**などについて様々な策

第４回
2021.3.XX

地域ニュースレターの発行（1＆2号）

第一号 令和2年12月　発行：京都京北未来かがやきビジョン推進会議、京都超SDGsコンソーシアム

京都から世界にSDGsを発信する情報プラットフォーム
SDGs KYOTO TIMES　Vol.01

京都京北みんなかがやく瓦版（かわらばん）

特集　持続可能な京北をめざして、始動！

〈京都京北未来かがやきビジョン推進会議〉の立ち上げ（令和2年8月）

京北の10年後の未来像や重点戦略等を掲げた「京都京北未来かがやきビジョン」が、平成27年に策定されてから5年目の折り返しの年を迎えるとともに、京都京北小中学校の開校といった京北地域の大きな節目の時期となっています。そのような中、かがやきビジョンの実現に向けて今後の方向性や進め方について地域の住民が自ら考え、地域が主体となったまちづくりを一層推進するため、8月に京北自治振興会と右京区役所京北出張所の呼びかけにより「京都京北未来かがやきビジョン推進会議」が立ち上げられました。

推進会議は、自治会、地域団体、行政機関を代表するもので構成しています。また、時を同じくして産学公の連携組織「京都超SDGsコンソーシアム」（京都大学、京都市、リコー、JT、安田産業、ソフトバンク、ecommit、三洋化成工業、セブン&アイ・ホールディングス）が京北地域をフィールドに「持続可能な中山間地域のモデル構築」の取組を始動し、京都京北小中学校でのふるさと未来科の学習においても、京都大学の支援でSDGsの視点を取り入れた授業が行われています。

推進会議では、当コンソーシアムと連携し、元京北第一小学校も活用しながら京北地域の未来を考えていきます。ワークショップやアンケートなどを通して、これからの京北のことについて語り合い、地域のみなさまと一緒に京北地域を盛り上げていきたいと考えています。

※会議の情報は右京区役所のホームページでご覧頂けます。
検索　右京区　京北かがやきビジョン推進会議

京都京北未来かがやきビジョン推進会議 第一回ワークショップを開催しました！

令和2年10月9日（金）に、京北の将来像を住民自ら考えていくためのワークショップ（第一回）が元京北第一小学校ランチルームにおいて開催され、45名（昼の部25名、夜の部20名）の参加がありました。

グループに分かれての話し合いでは、自分たちがどのように暮らしていきたいかを出発点に、地域の将来について考え、『わたしたちの将来のために、○○な京北になっていてほしい』という思いを出し合いました。和気あいあいとした雰囲気の中で進められ、各グループともに盛り上がりました。

互いの想いを知ると同時に、異なるフィールドで活動する住民同士の交流が進み、今後につながる場になったと思います。

ワークショップの内容

①はじめに（大東 京北出張所長）
ご挨拶 ⇒趣旨・目的の説明 ⇒京都京北未来かがやきビジョンとこれまでの歩み、京北の現状、京都超SDGsコンソーシアム等についての説明

②まずは、雰囲気作りから！
くじ引きで3～4人のグループにわかれて、自己紹介、グループメンバーの共通点探し

③いよいよ、京北の未来へ！
「わたしは京北で将来このように暮らしていたい」について、現実的にではなく夢や理想を記載し共有 ⇒さらに『わたしたちの将来に向けて、京北地域について思うこと』について意見を出し合い、付箋を貼り付けながら共有

④出てきたアイデア・意見の例
・農先輩の田舎・電気のない暮らしを体験できる・子供達が安心して暮らせる
・空き家と貸すのマッチング・人と人とのつながりや絆を大切に
・農業に興味を持つ若者が増える・全国一の子育て支援・山がやられる
・有害動物が少ない・美味しいジビエ・共同で農業ができる・歴史を受け継いでいく

SDGsことはじめ

SDGsとは、世界が持続していくために、2030年までに達成すべき目標です。
京北でも、これをキーワードに、地域づくりを考えていきたいと思っています。
すでに、京都京北小中学校でも、京都大学の学生と一緒に勉強を始めています。

SDGsとは…

ご報告

京都京北小中学校『ふるさと未来科』におけるSDGs関連学習進行中

京都市立京都京北小中学校の8年生では、令和2年9月から『ふるさと未来科』において「SDGsの視点を取り入れ、京北のための"withコロナ"イベントを企画、提案しよう」をテーマに、授業を行っています。京都大学及び京都超SDGsコンソーシアムも支援・連携しており、年度末までのプログラムが予定されています。生徒たちにとっては、初めてのSDGsということでしたが、自分のことと、京北の未来について大変積極的に考えています。どんな企画が提案されるのかをうご期待！

京北にてSDGs研究がスタート

京都大学が中心となり「京都・農山村のSDGs教育拠点化」研究が京北をフィールドに始まりました。日本生命財団の助成を受けることとなり、10月9日午前には元京北第一小学校にてキックオフ会議等が行われました。日本生命財団の甲斐理事長や右京区の北川区長、京都大学地球環境学堂の勝見学堂長らに加えて、京北の関係者も参加し、今後2年間に渡る研究展開に向けて活発な意見・情報交換が行われました。既に京都京北小中学校でのSDGs教育が始まっていますが、今後、北桑田高校や地元の様々な組織・個人の方々との協働が予定されています。興味のある方は、お問合せください。

11月7・8日「ツクル森」でもプロジェクトについて発信

里山の作家による陶芸、木工、編物、染物など多数の作品、地元野菜やオーガニックフード、世界各地の多彩な音楽のステージで人気のイベント「ツクル森～アートクラフト世界の音楽会～」が、あうる京北にて開催されました。「未来をツクル・トークショー」には京都大学／京都超SDGsコンソーシアムの浅利美鈴准教授も参加し、京北での一連のプロジェクトを紹介すると同時に、コロナ禍における都市と里山の連携や可能性について、地元クリエイターや事業者との対談を行い、盛り上がりました。

11月10日 あうる京北にて環境省等が主催するシンポジウムでは京北の関係者からの発表にも注目が

「中山間地域から考える地域循環共生圏の可能性ー全国先進地及び京都におけるSDGs・資源循環分野の取り組み事例を中心に」（主催：環境省、廃棄物資源循環学会）が開催され、会場には約100人が集まった他、オンラインで300人以上が視聴しました。京都府西脇知事のご挨拶や京都市門川市長のご発表に加え、京北地域からは森の力京都の久保社長、京北出張所の大東所長がパネルディスカッションに登壇。取組や課題、今後の展開に関する発言に、注目が集まりました。

11月18日「京都の里山ライフ」を京北から全国へライブ配信

科学技術振興機構（JST）が主催する「サイエンスアゴラ2020」にて、里山の知恵や工夫、象徴的な場所と人を紹介しながら、SDGs・持続可能性のヒントを探りました。元京北第一小学校と河原林邸（山国）をつないで2時間のLIVE配信となりました。茅葺の河原林邸では河原林さんより山国の歴史、食や茅（かや）、土の循環、地域文化の継承などについて、昔の映像と共に語って頂きました。上桂川では、上桂川漁業協同組合の奥原さんらに、アマゴの在来種の維持など生物多様性についてお話頂きました。子供達の元気な川魚獲りの様子も見せて頂きました。京北銘木生産協同組合では一瀬さんより、北山杉の歴史、その魅力と可能性についてお話頂きました。はまちえ農園では安井さんご夫妻より（アイ）ターンでの色々な苦労話と里山の暮らしの良さをお話頂きました。当日の映像は次のウェブサイトにてご覧頂けます。

https://www.jst.go.jp/sis/sciencegora/2020/planning/planning_180.html

画面下の「動画を見る/Video」ボタンをクリックしてください。

京都大学の真常准教授らも始動

地域における資源循環の要として茅を評価してみようという試みを始めました。手始めに、収穫適期を迎えた茅の刈り取りを地域の方のお手伝いをしながら（足手まといになりながら！）進めているところです。
先生談

京都京北小中学校における SDGs・環境教育実施支援

- 8年生（中2）ふるさと未来科・総合学習の時間
- 2021年2月19日に、地域の方々等に向けて発表＆交流

教育を通じた地域の団結

第一部

生徒からの発表：生徒たちはSDGsについて学び、それぞれの興味・関心や自分らしさを踏まえて、地域の課題解決や魅力発信に繋がるようなイベントを企画しました。それについてポスターを使って発表し、地域の方々や専門家から、アドバイスや情報をもらいました。

第一部 生徒のイベント提案内容

●北山杉でおもちゃを作ろう！　●Let's show your WOOD WORKING　●オシャレな天体観測～まったり・ほっこり～
●京eスポーツ　●京北を感じよう～Moegiのひととき～　●京北フェスタ　●ジップラインで行く！In 栗尾峠
●自転車、バイクで自然を満喫しよう！　●木工作品フリーマーケット　●北山杉プロジェクト～かがやけ北山杉～
●京北のHotもっと　●京北満喫BBQ&ゆるゆるハイキング　●野菜とってBBQ　●京北スタンプラリー

第二部

共創ワークショップ：世代や専門分野を超えて、持続可能な京北地域の未来のために、生徒×地域の皆様×京都超SDGsコンソーシアム関係者による共創ワークショップを開催しました。充実したプログラムで、生徒たちも積極的に体験している様子が伺えました。

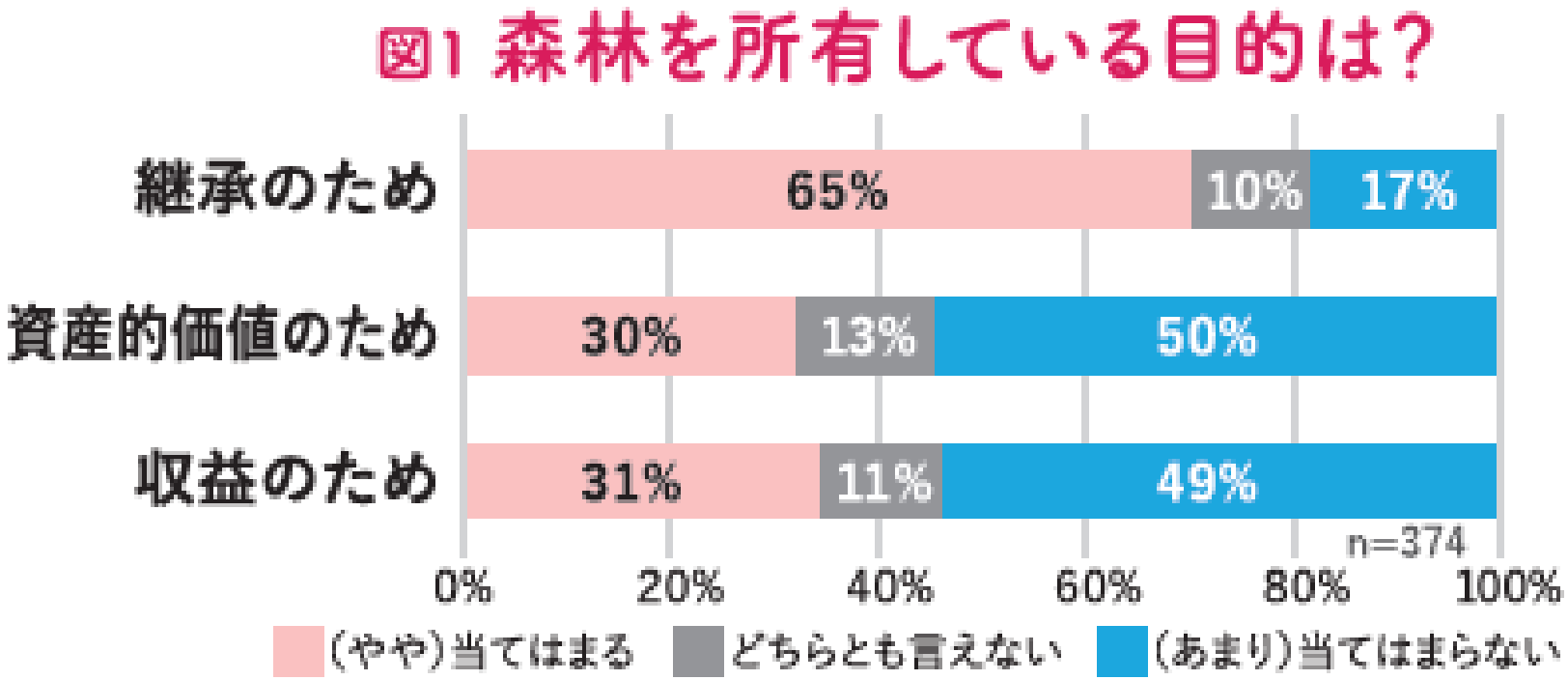
第二部 地元の専門家らから提供された共創ワークショップ

●真鍮磨きで鏡づくり　●わらで鍋敷きづくり　●マイ箸づくり　●みんなで育てる段ボールコンポスト
●傘のアップサイクル　●めんえきLab.～がん治療最前線～　●京都一周トレイル京北コース　●動画発信のススメ
●着物の帯の結び方教室　●国語の力が勝手にのびる速読体験　●外国語SDGs交流会

京北地域の全世帯を対象としたアンケート調査の実施

- 森林に関する意識・行動を中心に、全世帯（2,029）を対象に実施し、374件回収（武田裕希子さん修論）
- 結果の例：

ゆれる地域の価値観



→ 経済価値を認める人は約3割で、ほとんどが継承のため所有

（続き）京北地域の全世帯を対象としたアンケート調査の実施

共通の目的に向けて

災害から住民を守れる森林に！9割の人が期待

森林に期待する機能について尋ねた中で、特に期待が大きかったのが「防災機能」で、**回答者の91%が「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」に期待**を示しました。昨今、全国各地で風水害が多発し、京北でも土砂崩れやライフラインが寸断される事態が発生しています。そのような中、**住民の総意で森林維持に取り組む目的として「防災」は重要な視点**となりそうです。

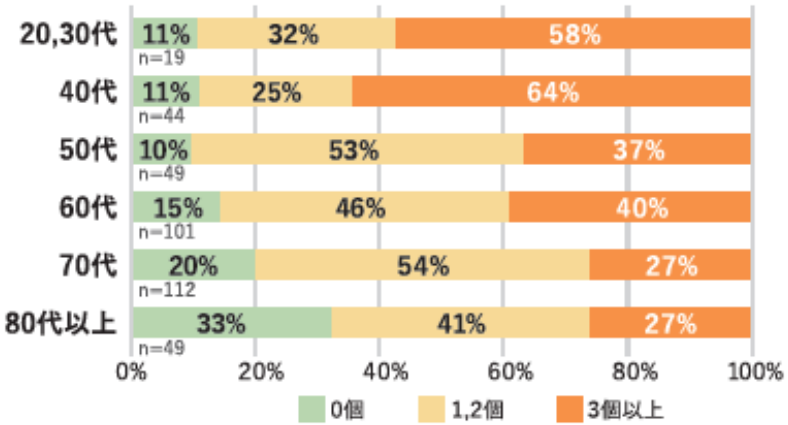
新たな森林との関わりへ、未来は明るい？！

「新たな森林活用を進める場合、どのようなことを自分で実施・体験してみたいか」という問いに対して16の活動例を示し、選択個数を**森林の総合利用に対する積極性**と読み替え、解析を行いました。その結果、3個以上選ばれた方は、**70歳代以上で3割弱**であったものが、**20歳～40歳代で6割前後**と、**若い世代が積極的**とわかりました。

京北地域には既に、クロモジの商品開発や香りビジネス、里山ツーリズム、芸術イベントなど、新しい森林との関わりを事業等に繋げる多くの取組が存在しています。今後、取組を広げ、盛り上げていき、より多くの住民が森林の価値を再認識することが期待されます。

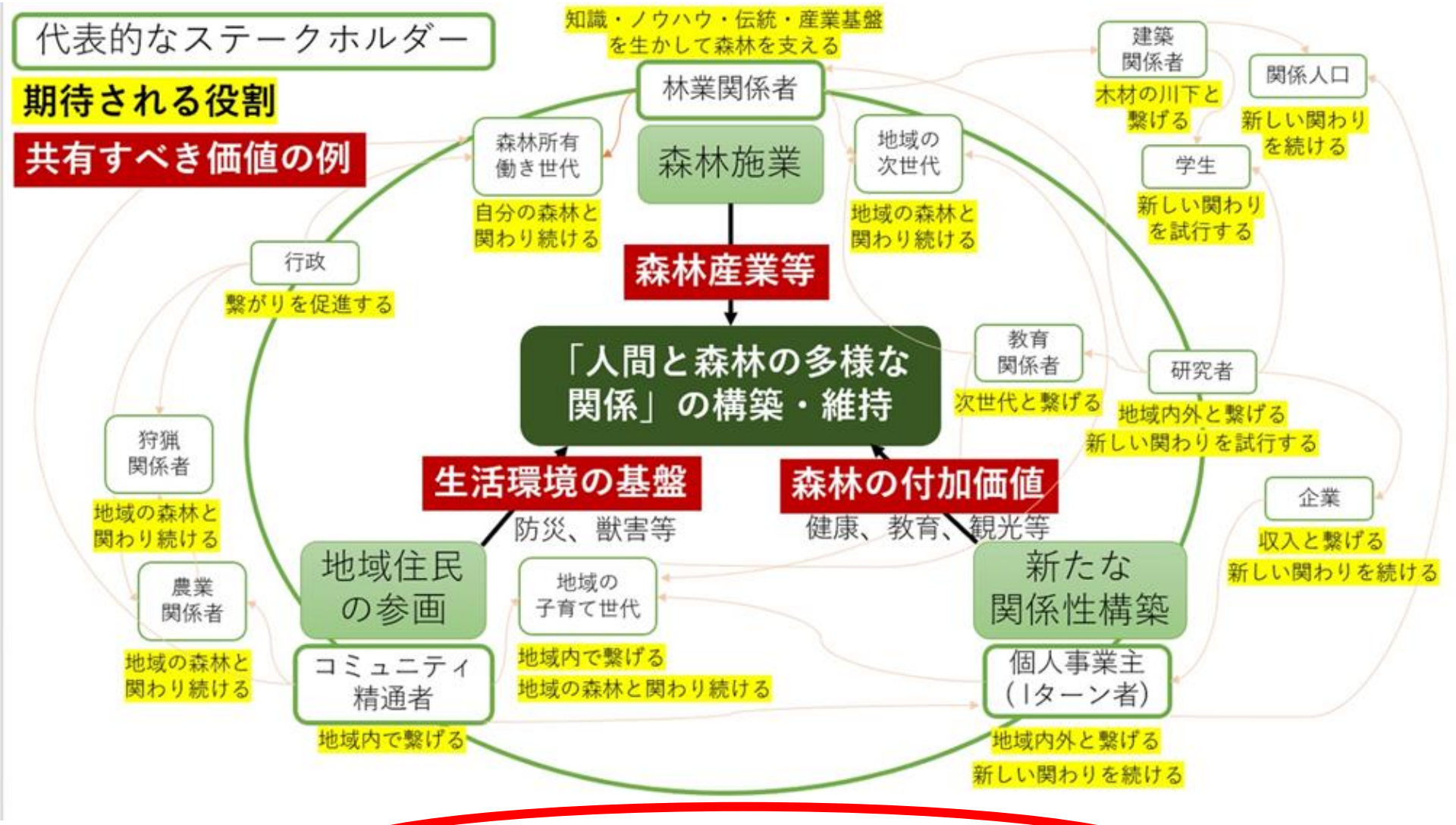
図3 森林の総合的な利用に関する意欲

（選択個数・年代別）



※本調査は、日本生命財団環境問題研究助成の支援を受けて実施したものです。

（続き）京北地域の全世帯を対象としたアンケート調査の実施



重要なプレーヤーの確認

【参考】取組の萌芽（例）

南丹市川辺振興会（おいでーなかわべ）のパッションフルーツ栽培

- 遊休農地の活用
- 人を集められる要素
- 収益にもつながる

→

- 栽培が簡単（露地栽培可）
- 栽培管理が容易（下草管理、施肥管理が楽）
- 開花時の花が綺麗で人目を引く（美観形成）
- 利用用途が広く付加価値が高い（高付加価値）

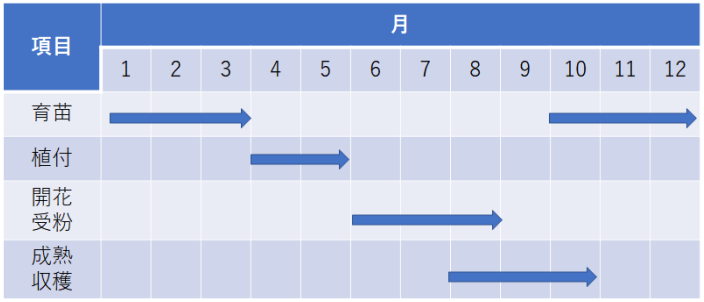
開花（時計草）

成熟

収穫

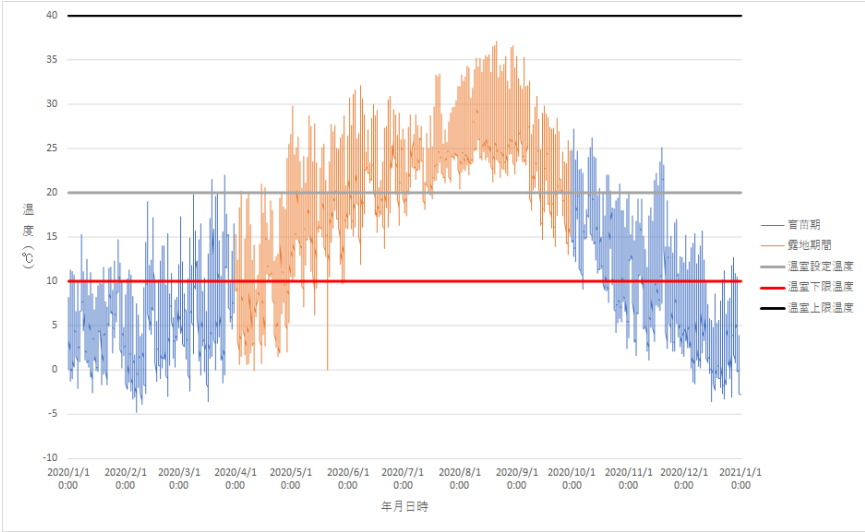
ソーダ割り他バターに混ぜるなど利用用途は様々

- 令和２年10月より川辺地区エコ農園で栽培を開始



旧カンポリサイクルプラザ横のエコ農園で10月に挿し木を行い、育苗を開始、現在順調に生育中、春に植付予定

（続き）南丹市川辺振興会のパッションフルーツ栽培



南丹市園部観測所の2020年気温変化

- パッションフルーツの栽培適温は10～40℃
- 育苗期には10℃を下回らないように留意しなくてはならない。

- 温室の温度管理を容易に出来ないか
- 温室の加温を再生可能エネルギーで賄えないか
- 肥料など、栽培時の付加要素も欲しい

農業コミュニティ単位での小型バイオガス化設備導入検討への展開

小型バイオガス化設備の例：処理量500～1,000kg/日のコンパクトバイオガス化施設

生ごみ分別

ディスポーザ型
生ごみ投入設備

ガスホルダー一体型
メタン発酵装置

- 発　電 → 温室加温に
- 温　水（発酵槽の加温） → 温室加温に
- 消化液 → 施肥に

地域ニーズに合わせた農業コミュニティでの小地域循環圏の形成から

主に京都市京北地域における今後の取組（実践）に向けて

（京都超SDGsコンソーシアムが中心の取組）

- 地域住民や関係者との事業展開に向けた関係性構築等の継続：活動の拠点整備等を含む
- 京都京北小中学校におけるSDGs・環境教育の発展：北桑田高校・京都大学・全国リーダーとの連携、地域循環共生圏に関する実践的学び
- 地域循環共生圏構築に向けた取組へ

〇食品ロス削減キャンペーン

〇食品ごみ循環システム構築（FS）

〇1次産業（農林漁業）や「新たな暮らし方」「重要なプレーヤー」との連携モデル構築（FS）

→ローカルSDGsモデルとしての10次産業化＝1：原料生産＋2：加工＋3：流通・販売＋4：循環・教育・共生